

能楽へのいざない

能小鍛冶

第一部 解説

- ・能面解説 伊庭貞一
- ・囃子の解説

第二部 能

- ・能舞台の解説
- ・ナレーション「小鍛冶」 中島みちる



前シテ・童子
後シテ・稲荷明神

浦部 幸裕

小鍛冶

ワキ・三条宗近 有松 遼一

大鼓 河村凜太郎 太鼓 井上 敬介
小鼓 久田陽春子 笛 森田 保美

ワキツレ・勅使 岡 充

間・宗近に仕える者 山下 守之

後見 浦部 好弘

井上裕之真
分林 道治

地謡

寺澤 拓海
吉浪 壽晃
井上 裕久
塚本 和雄
寺澤 幸祐

・司会 中島みちる

【紹介】五個荘在住 刀剣作家 北川正忠

刀剣作家 北川正忠は、日本古来の伝統技法を受け継ぎ、現代刀匠として研鑽を重ねております。作品は鎌倉時代の備前伝を元に、華やかな丁子乱れ（刃文）と精良な地鉄を備え、伝統美と現代的感性を併せ持つものとして注目されています。

現代刀職展において高松宮記念賞を三年連続受賞、滋賀県文化奨励賞受賞など高く評価され、彦根城博物館所蔵の井伊家伝来太刀の復元ほか、兵主大社・花岡八幡宮への奉納太刀の制作にも携わってきました。現在も鍛刀場にて日々精進し、後世に伝わる名刀を目指しております。また刀剣の精神と美を次世代に伝えるため、講演など幅広く活動しています。

※使用する能面は、「滋賀能楽文化を育てる会」会員の中から選ばれます

あらすじ

一条天皇（九八〇～一〇二一）の命により、勅使の橘道成は、刀匠として名高い三條小鍛冶宗近（さんじょうのこかじむねちか）のもとを訪れ、剣を打つよう命じます。

宗近は、自分と同様の力を持った相鎧を打つ者がいないために打ち切れないと悩み、氏神の稲荷明神に助けを求めて参詣しますが、そこで宗近は、不思議な少年に声をかけられます。少年は、剣の威徳を称える物語を語って宗近を励まし、相鎧を勤めようと約束して稲荷山に消えていきました。

家に帰った宗近が身支度をすませて礼拝していると稲荷明神のご神体が狐の精霊の姿で現れ、「相鎧を勤める」と告げます。

先程の少年は、稲荷明神の化身だったのです。明神の相鎧を得た宗近は、無事に剣を鍛え上げ、表には「小鍛冶宗近」の銘、裏にはご神体が弟子を勤めた証の「小狐」の銘という、ふたつの銘が刻まれた名剣「小狐丸」が出来上がったのです。

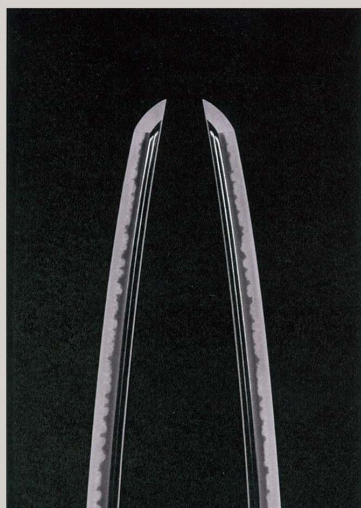
みどころ

「小鍛冶」は、一曲の展開が素早く、非常に変化に富み、前半、後半ともに見どころの多い人気の曲です。

前半では宗近の前に現れた不思議な少年が、名剣の靈験を語るところ、特に火に囲まれた日本武尊が、草薙の剣を抜いて草をなぎ払い、炎を敵に返して退ける名場面の語りと動きの変化が面白いです。

後半は相鎧を勤める明神と宗近が剣を鍛えるクライマックスへ向かってどんどん運んでいくところに妙味があります。

きびきびした動きと爽快な謡は見る人を飽きさせません。演者の技の切れや謡の力を素直に楽しめる曲で、歌舞伎や文楽にも採り入れられ、親しまれています。



刀剣撮像：中村 慧 (Spare Time Studio)
2021年高松宮記念賞受賞作品
太刀 銘 正忠作 令和三年正月日

東近江市てんびんの里文化学習センター

〒521-1421 滋賀県東近江市五個荘電田町583番地

HP: <https://higashiomi-j.com/tenbinnosato/>

開館時間：午前9時～午後5時 駐車場有り

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始、臨時休館あり

■交通アクセス

- ・JR琵琶湖線

能登川駅から近江鉄道バス「八日市駅行」で「金堂」または「ぶらざ三方よし前」下車徒歩15分

- ・近江鉄道

五箇荘駅から徒歩25分

- ・名神高速道路

八日市ICから車で約20分、竜王ICから車で約30分、彦根ICから車で約40分

